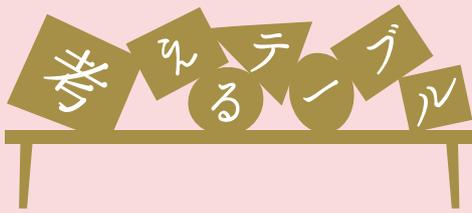


てつがくカフェ

＝ 第69回 ＝



てつがくカフェとは？

「てつがくカフェ」は、わたしたちが普段、当たり前だと思っている事柄から、いったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いとして投げかけます。そして、ゆっくりお茶を飲みながら対話し、自分の考えを遅しくすることの難しさや楽しさを体験するものです。

<https://www.smt.jp/projects/cafephilos/>

「てつがくカフェ」で行われるさまざまなイベントのスケジュールやこれまで開催されたイベントのレポートを閲覧できます。

「考えるテーブル てつがくカフェ」は、これまで7年にわたり（延べ65回）震災に関連した哲学対話の場をひらいてきました。毎回事前にテーマを設定（共有）し、参加者どうしの丁寧な対話をもとに、震災にかかわる問いや課題に伝えてきました。震災から8年目を迎えた今、その長い時間の経過とともにそれぞれの震災に対する考え方や関心のあて先、さらにはそれらに対する意識の強さにもさまざまみな（違い）が生じつつあります。

そこで、「考えるテーブル てつがくカフェ」では、そのような個々人のあいだにある（差異）にこまやかに対応し、また被災地の今の空気感や気分にもいっそう寄り添っていきけるように、今年度からはあえて事前にテーマを設けず、参加者の方々とその場で毎回テーマを決めながら対話を深めていきたいと考えています。あたらしい「てつがくカフェ」の取り組みがはじまります。みなさま、ぜひご参加ください。

助成：一般財団法人 地域創造



せんだいメディアテーク

仙台市青葉区春日町 2-1

022-713-4483



2019年1月20日(日) 15:00-17:30

せんだいメディアテーク 7f スタジオ a

申込不要・参加無料・直接会場へ

主催：てつがくカフェ@せんだい / せんだいメディアテーク

お問い合わせ：mmp0861@gmail.com（てつがくカフェ@せんだい・西村）

※この用紙はリサイクルできます

前回てつがくカフェのレポート

第 68 回てつがくカフェ / 2018 年 11 月 25 日 / メディアテーク 7f スタジオ a

今回第 68 回のとつがくカフェはこれまでと同様に予めテーマを設けず、前回・前々回で出されたキーポイントやテーマ・定義などを再提示し、参加者と共有することから始めました。

第 66 回キーポイント

- ・消化することと、忘れることの違いは何か
- ・(社会システムを) 信頼していること、信用していること、信じること、それについて考えていないことの違い
- ・私たちはどうやって横のつながりを得るのか

第 67 回テーマ・定義

怒りとは？

- ・怒りとは、方向性が不明なエネルギー
- ・怒りとは、何もできないときに生じる

今回は、参加者の一人が抱えていた悩みを話し始めることから具体的な対話が始まりました。その参加者はあるコミュニティに属し、その中で嫌な思いをしていました。しかし、その想いを誰にも相談せずに自分一人で抱え続けていました。それは誰かに打ち明けることがコミュニティの輪を乱すことにつながるのではという危惧、また自分の態度から周囲に自分の気持ちを汲んでほしいという希望からでした。この誰にも相談せず悩みを抱え続ける姿勢に関して、他の参加者たちから様々な意見が出てきました。

まず、相手が許せないならばコミュニケーション自体を断つてはどうかという意見。また具体的に自己主張せずに態度で相手に察してもらうという姿勢自体についての是非。他には、批判・非難といったネガティブな発言は聞きたくないという同調圧力によって、本人は話したくても話せない状態にあるという意見。そもそもなぜこのようなコミュニケーション不全は起こるのかという問題提起をされた方もいました。ある一人の悩みについてざっくばらんに対話していった中で「コミュニケーション」というキーワードが浮上してきました。以降では具体的に「コミュニケーション」をテーマに据えて対話が進んでいきました。

「コミュニケーション」のなかでも、双方が良好な「コミュニケーション」を築けていないのはなぜかというコミュニケーション不全の原因を探ることから対話は再開しました。その原因の一つとして、異なる価値観を持つがゆえに相手に恐れや怯えを抱くためである、という回答が他の参加者からあがりました。この恐れや怯えを乗り越えるための「**勇気**」を持てる人・持てる時がある一方で、ない場合には代わりに「**怒り**」を原動力として「コミュニケーション」をとるという方もいました。ここまでは「コミュニケーション」をとることはいいことである

という前提で対話が進んできましたが、そもそも「コミュニケーション」をとらないことはいけないのか？という「コミュニケーション」根本の是非についても意見があがり始めました。それに伴い、対話前半であがった同調圧力で相手の意見を抑制している状態はそもそも「コミュニケーション」と言えるのだろうか？手段としての「コミュニケーション」のあり方を問う一方、「コミュニケーション」自体のあり方についても様々な意見があがってきたところで、参加者に再度「コミュニケーション」とは何か？という問いをファシリテーターから投げかけ、参加者たちが考えつくことを列挙していきました。

「コミュニケーション」とは？

- ・怒りをモチベーションとする
- ・人間関係
- ・目的の有無
- ・相手のことを知り理解する
- ・気持ちの交換
- ・思いやり
- ・相手がいて成立する
- ・存在の肯定

ここで「コミュニケーション」をさらに考えるためのキーワードを挙げていきました。

- ・相手の存在の肯定
- ・言葉だけではない
- ・相手
- ・目的の有無（に関わらず）
- ・勇気
- ・価値観

これまでの対話を通して「コミュニケーション」とは何かを最後に定義しました。

- ・相手の価値観と自分の価値観の違いに気がつくこと
- ・自分をひらく
- ・目的がなくても人に必要なこと

これらの定義づけをしたところで対話は終了しました。今回は震災に直接関係する対話はありませんでした。ファシリテーターも特に震災と結びつけるような誘導はしませんでした。今回参加された方々は直接震災に関わる問題よりも身近な問題として「コミュニケーション」を選んだようでした。次回以降も事前にテーマを設けず、参加者の方々とその場でテーマを決めながら対話を深めていきたいと思います。